

# 平成 29 年度 第 3 期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会

日時：平成 30 年 2 月 15 日（木）

13 時 30 分～15 時 30 分

場所：港北区役所 特別会議室

## 次 第

### 1 開会

### 2 挨拶

港北区長 横山 日出夫

港北区社会福祉協議会会長 飯山 精三

### 3 議題

(1) 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 29 年度の取組報告

【資料 1】【資料 2】【資料 3】

(2) 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 30 年度の取組の方向性

【資料 4】

(3) その他

### 4 閉会

#### 資 料

資料 1-1 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 29 年度の取組報告

資料 1-2 重点取組別 平成 29 年度の振り返り

資料 1-3 第 3 期「ひっとプラン港北」地区計画推進状況

資料 2 第 3 期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会での検討内容

資料 3 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM)  
との包括協定に基づく連携について

資料 4 第 3 期「ひっとプラン港北」平成 30 年度の取組の方向性

資料 5 第 3 期 計画推進スケジュール (平成 28～32 年度)

参考資料 1 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業

⇒区連会 3 月定例会では添付省略

参考資料 2 平成 29 年度「ひっとプラン港北」地区連絡会議報告書

参考資料 3 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた港北区行動指針

⇒区連会 3 月定例会では添付省略

### 第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 委員名簿

五十音順・平成30年2月現在

氏 名		所 属
座長	うつみ ひろし 内海 宏	(株)地域計画研究所 所長
	くろやなぎ みえ 畔柳 三笑	港北区社会福祉協議会 セーフティネット分科会
	こばやし たつお 小林 辰雄	港北区連合町内会会長
	さかい まつお 酒井 松雄	港北区老人クラブ連合会会長
	しのざき もとひこ 篠崎 元彦	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会副会長
	たけい てつや 武井 哲也	篠原地域ケアプラザ所長
	ないとう えいじ 内藤 英二	港北区医師会会長
	はら みき 原 美紀	NPO法人びーのびーの事務局長
	ふくまつ みよこ 福松 美代子	港北区保健活動推進委員会会長
	ほんだ かずのり 本田 和徳	しんよこはま地域活動ホーム所長
	みやた みつあき 宮田 光明	港北区民生委員児童委員協議会会長
	むらの あけみ 村野 明美	港北区ボランティア連絡会会長

※

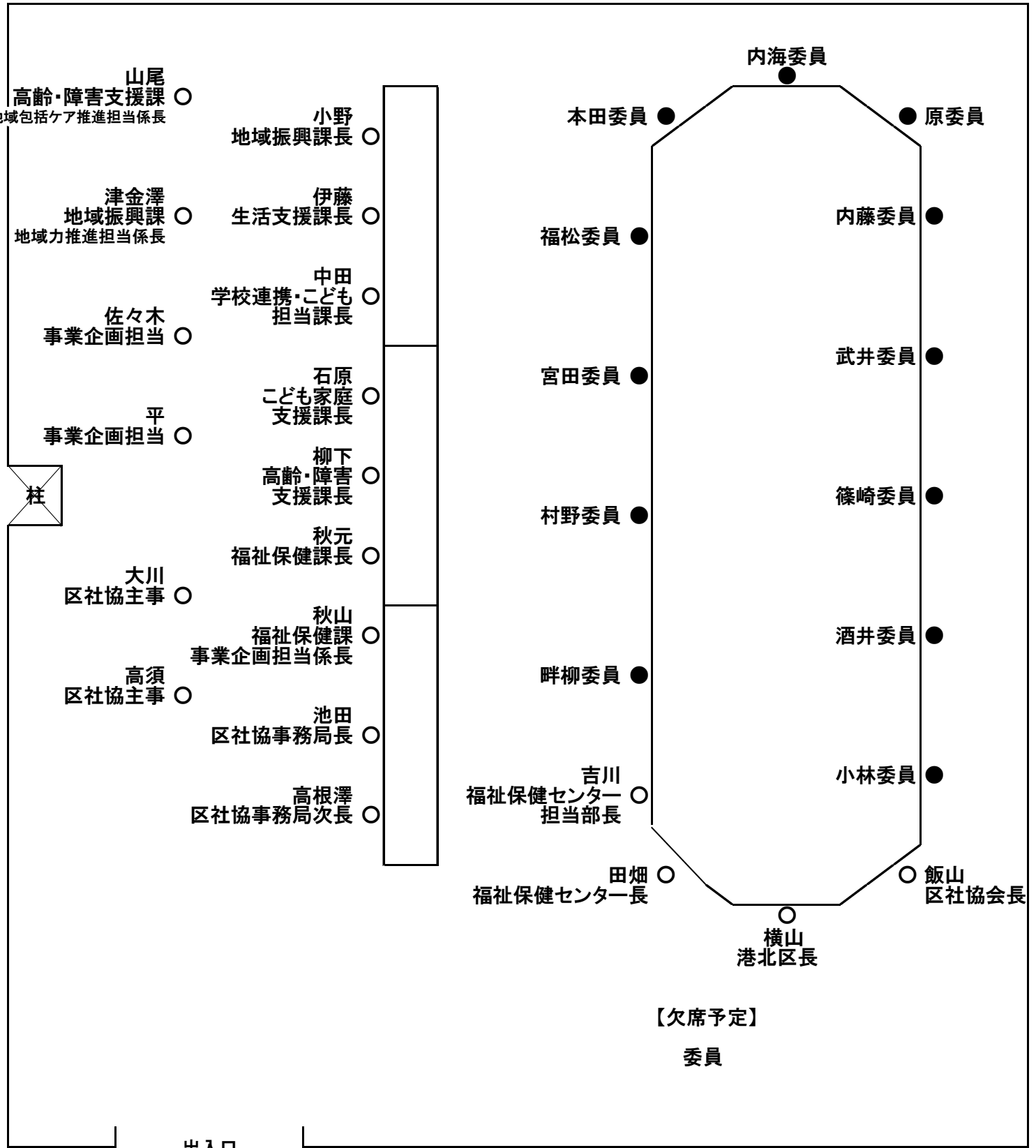
※ 平成29年度から委員交代

### 「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 事務局名簿

氏 名	所 属
横山 日出夫	港北区長
飯山 精三	港北区社会福祉協議会会長
田畑 和夫	港北区福祉保健センター長
吉川 直友	港北区福祉保健センター担当部長
秋元 秀臣	港北区福祉保健センター福祉保健課長
秋山 美帆	港北区福祉保健センター福祉保健課事業企画担当係長
池田 誠司	港北区社会福祉協議会事務局長
高根澤 恵子	港北区社会福祉協議会事務局次長
柳下 裕明	港北区福祉保健センター高齢・障害支援課長
石原 千草	港北区福祉保健センターこども家庭支援課長
中田 一志呂	港北区福祉保健センター学校連携・こども担当課長
伊藤 泰毅	港北区福祉保健センター生活支援課長
小野 佐幸美	港北区地域振興課長・地域力推進担当課長
津金澤 恭之	港北区地域振興課地域力推進担当係長

# 平成29年度第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会 座席表

平成30年2月15日(木)  
13時30分～15時30分(予定)



港北区役所特別会議室

## 第3期「ひっとプラン港北」平成29年度の取組報告

### 1 平成29年度の取組

#### 重点取組 ひろがる

住民の年代や志向にあわせた活動が多く地域で開催されており、更に活動が発展するよう区・区社協・地域ケアプラザが支援し、新たな社会資源の創出につながりました。住民の意見に基づき、多くの住民が地域活動に参加できるような検討も進めています。また子育て分野でも子どもを取り巻く環境の整備が一層進みました。

#### 【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・人材発掘を目的として「地域探検」、趣味や興味をきっかけとしたパソコン教室、男の料理教室
- ・20～50歳代の区民を対象とした、地域の活動の捉え方や参加意向に関する意見交換会の実施
- ・子育て情報通知アプリ（ココアプリ）の開発
- ・既存の地域活動から新たな社会資源への移行及び創出支援
- ・食や学習などをきっかけとする「子どもの居場所」づくりの取組

#### 重点取組 つながる

住民等が主催する、子育てや健康づくり、特技等をいかした多様な交流の場が増えてきています。地域ケアプラザでは住民と地域がつながるための取組を進めました。誰もが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、認知症や障がい等への理解啓発にも力を注いでいます。また、高齢者の地域活動や社会貢献を支援する場が開設します。地域とつながりながらの健康づくり、介護予防の取組が広がっています。

#### 【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・土曜日両親教室を地域ケアプラザで実施
- ・食の支援を視野に入れた多世代交流の居場所づくりの検討
- ・新聞配達員や商店街、大規模商業施設等への認知症サポーター養成講座の開催
- ・生きがい就労支援スポットの設置（いきいきシニア地域貢献モデル事業）
- ・ウォーキングサポーターの人材育成と活動支援

#### 重点取組 とどく

自ら相談しにくい困りごとを抱える方や支援が必要な方を速やかに把握する仕組みづくりを進めました。キャラバンメイトへの活動支援や徘徊高齢者等を早期に発見する仕組みづくりに取り組み、地域での緩やかな見守りが広がってきています。高齢者や障がい者、子育てに関する相談・支援機能を持つ拠点を拡充し、身近な地域で相談や支援が受けられる環境を整備しています。災害時要援護者支援においては、災害時要援護者支援名簿をもとに、各地区の特性に合わせた支援体制づくりを進めました。

#### 【重点取組別 振り返りより抜粋】

- ・「ごみ問題を抱えている人への支援事業」の実施
- ・地域の居場所における各種相談受入れと地域ケアプラザとの連携
- ・生活困窮者自立支援事業に関する地域ケアプラザ出張相談会の実施
- ・親と子のつどいのひろば新規開設
- ・災害時要援護者支援事業の新規協定締結（3自治会町内会）

## スケジュール

日にち	取組	概要
4月	地区計画ニュースの発行	地区の取組、推進の状況を広く地域にお住いの方に周知しました。
10月26日(木)	ほくほくフェスタ	「地域がつながるみんなの“居場所” ～誰もがつどえる交流の場づくり」 【発表団体】「師岡こども学習会」 「ホッとカフェ」 「障害児者のよりどころ ふれんど」 【コーディネーター】 豊田宗裕氏（聖徳大学心理・福祉学部教授）
11月12日(日) 11月18日(土)	地域活動に関する意見交換会	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（SDM）との包括協定に基づく連携により実施しました。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3 参照</span>
11月29日(水)	地区連絡会議	地区計画推進の実務者が出席し、意見交換を行いました。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考資料2 参照</span>
2月15日(木)	第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	29年度の報告と30年度の取組の方向性についてご報告し、課題となっていることについて意見交換を行います。
3月	地区計画ニュースの発行	地区計画ニュース作成について、各地区に依頼しています。地区の取組を振り返り、次年度の取組を確認します。

### 幅広い住民の地域活動への参加促進

#### 背景

- 自治会町内会をはじめとする地域活動において、担い手不足や参加者の減少が課題になっています。一方、多様な技術を持ち地域に関心を持ちながらも、参加に至らない住民も多くいます。
- 多くの住民に地域活動を知ってもらうために、情報発信の取組が行われています。若い世代に向けて情報ツールを工夫する必要性が認識されていますが、技術的な課題等により困難な場合があります。
- 特に地域活動に疎遠になりがちな若い世代や団塊の世代が参加しやすいよう、情報発信とあわせて、参加のきっかけづくりや、活動内容や運営面での工夫が必要です。
- また、地域活動を始めたいと考える方に対してよりきめ細かい支援を行うコーディネーターの充実が望まれています。

#### 取組目標

- 1 地域活動の魅力を伝え、多くの住民の理解を深めます。
- 2 多様な地域活動への参加のきっかけをつくり、継続に向けた支援を行います。

#### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 各世代にあわせた効果的な媒体を用いて、地域活動の重要性や魅力を発信すると同時に、地域の活動団体等が情報を発信する取組を支援します。
- 地域活動への多様な参加のあり方についての啓発を進めると同時に、参加のきっかけをつくります。
- 様々な世代が感じている地域課題を当事者同士で共有する場をつくり、課題解決しようとする取組を支援します。
- 多様な経験、スキルを持った人材が、自治会町内会をはじめとする地域活動団体と連携するきっかけをつくります。
- 港北区ボランティアセンターにおける、活動支援およびコーディネート機能を強化します。
- 港北区区民活動支援センターや地域ケアプラザ等のボランティアをコーディネートする施設が連携し、ボランティアの育成と活動支援を行います。

#### 地域での取組例

- 地域活動に関する情報発信（広報紙、ホームページなど）
- IT活用に関する講座の開催
- 多様な世代にとって参加しやすい行事や活動の企画、運営
- 子育てや介護をしている人等が活動に参加するきっかけづくり
- ボランティア講座、技術講習会、活動体験の開催
- 個人の趣味や特技を活かせる活動の場づくり

## ひろがる-1 平成 29 年度の振り返り

- 地域では、新たな情報ツールであるホームページやイベントカレンダーなど、地域活動を多くの方にお知らせする取り組みが進められています。また、子育て世帯に向けては、区と子育て支援拠点、学校法人が協働し、オープンデータを活用した情報通知システムの開発を行いました。
- 20～50 歳代の区民を対象とした、地域の活動の捉え方や参加意向に関する意見交換を行いました。時間をかけて地域と共有すべき課題はありますが、区・区社協、地域ケアプラザ等で取り組める課題も見えてきました。多様な発想や技術を持つ住民や団体に活動への関心を持ってもらうための働きかけを行う必要があります。
- 地域や地域ケアプラザによる、趣味や健康づくり活動等を地域活動参加へのきっかけにする取り組みが広がっています。地域活動への参加者や新たな担い手への移行も少しずつ進んでいます。働き・子育て世代の参画を進めるための工夫が必要です。
- 地域ケアプラザや区内の区民利用施設が、それぞれの持つ機能や情報を有効に活用して連携することを目的に、地域施設間連絡会議を行っています。今年度は情報共有メールの配信を開始し、各施設の取組の周知に活用しました。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

・ オープンデータを活用した子育て情報通知アプリ（ココアプリ）の共同開発（岩崎学園情報科学専門学校・どろっぶ・区）

- 地域活動参加へのきっかけづくり  
 趣味や健康づくり活動等をきっかけにした地域活動参加への働きかけ（男性向け講座）  
 中学校や高等学校と連携した生徒の地域活動への参加  
 ボランティア養成講座（生活支援サービス担い手養成研修など）  
 学生ボランティア体験「ボラリーグ☆こうほく」  
 地域たすけあい型ボランティア交流会
- 地域施設間連携会議開催（2 回） 情報共有メールの活用
- 高齢者への介護予防活動周知用リーフレットの検討
- フォーカスグループインタビューの実施

### 【地域での主な取組】

- ホームページの運営（大曾根ほか 4 地区）※検討中含む
- イベントカレンダーの発行（綱島ほか 5 地区）※検討中含む
- 多くの住民が参加するイベントやまつりの開催
- パソコン教室、男の料理教室の開催（師岡）
- 人材発掘を目的として「地域探険」講座を月 1 回開催（城郷）
- 小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施



## 地域活動の活性化と拡がり促進

### 背景

- 地域では、自治会町内会、地区社会福祉協議会をはじめ、福祉活動団体、NPO法人等が様々な活動を行っています。これらの活動を行うにあたって、活動場所や資金、人材などの課題を抱えている団体は少なくありません。
- 活動の拠点となる施設は地域によってその数に偏りがあり、また、収益をあげにくい福祉保健活動に対する行政等の補助、助成は活動の存続に大きく関わっています。活用しやすい資源（人材、拠点、資金、物資、情報等）の整備と情報提供が望まれます。
- あわせて、個々で活動している団体間の連携を促進することによって、固有の課題を解決したり、さらに発展させたりしていくことが期待されます。

### 取組目標

- 1 円滑な福祉保健活動の推進のために、地域資源の活用を進めます。
- 2 多様な活動団体のネットワークづくりを進めます。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 既存の施設や空き家、空き店舗等の活用を進めます。
- 地域福祉保健を推進する事業に対して、補助金等の資金支援を行います。
- 活用できる人材、拠点、補助金等の情報を整理し、地域に提供します。
- 地域活動の企画、運営、広報等の支援を強化します。
- 自治会町内会活動、地区社会福祉協議会への支援を強化します。
- 地域活動団体と、企業、施設等との協働を支援します。
- 様々な分野の活動団体が情報交換、交流する場を設け、連携のきっかけをつくれます。

#### 地域での取組例

- 多様な団体と連携した地域活動の展開  
連携する団体の例：老人クラブ、子ども会、趣味のサークル  
企業、学校、商店会、福祉施設、市民活動団体
- 同じ地域で活動する団体同士の連携促進（活動交流会、ボランティア連絡会など）



## ひろがる-2 平成 29 年度の振り返り

- 各地域ケアプラザに配置された生活支援コーディネーターを中心に、把握した地域の社会資源や活動団体に積極的に関わり、地域のニーズに応じたサービスへの移行・創出を支援しました。
- 地域住民の交流拠点として、空き家や福祉施設等の活用が望まれています。また、住民のニーズに応じた様々な技術を持つ人材を地域内で充足させるのは難しい現状です。今後、区や区社協等が地域支援について企業等との連携を図るにあたっては、活動場所の提供だけでなく、専門知識や技術を持つ人材の活用もあわせて働きかけることが重要です。
- 「ひっとプラン港北」地区計画の推進をきっかけに、テーマごとの連絡会（分科会）で話し合いや具体的な取り組みが進んでいます。個々に活動する団体同士が情報を共有し、協力し合うことでそれぞれの活動の充実や発展、共通の課題を解決したりすることにつながっています。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 地域福祉保健を推進する活動への支援
  - 「地域のチカラ応援事業補助金」
    - \* 32 事業に補助金交付、団体交流会実施
  - 「港北みんなの助成金」
    - \* 255 事業に助成金交付
    - \* 新規団体立ち上げ支援 5 事業（介護予防・日常生活支援総合事業試行含む）
- 既存の地域活動から新たな社会資源への移行及び創出支援
  - \* 介護予防・日常生活支援総合事業の開始（3 団体）
- 企業との協働を推進
  - タクシー事業者による障がい者の移動支援の取り組みの進展（タクシープロジェクト）
  - 社会福祉法人・施設の公共的取り組みについての検討会を実施（10 団体参加）
  - 地区社協に対し社会福祉法人の公共的取り組みへの期待についてアンケートを実施

### 【地域での主な取組】

- 商店街との協働による高齢者の見守り活動の推進（菊名）
- テーマごとの連絡会（部会）を設置し、地区計画を推進（城郷ほか6地区）
- 高齢者を対象に「支援に関する要望」アンケートを実施（大倉山）
- 地元プロダクションの協力による地域福祉啓発（日吉）
- 地域で活動する団体の活動発表会や懇談会（篠原ほか2地区）
- 自宅の空きスペースを活用したお茶飲み会の実施（高田）



## 未来を担う次世代育成

### 背景

- 小さな子どもがいる世帯のほとんどは核家族世帯です。また、転入世帯が多いことなどから地域とのつながりも希薄で、子育てに関して周囲の支援が得にくい状況があります。子どもと地域の関わりも少なくなっています。
- 地域子育て支援拠点と協働し、子育て家庭の支援や子育てを支える地域づくりに取り組んでいます。
- 地域ぐるみで子育て世帯に関心を持ち、見守っていく風土が求められています。子どもや子育て世代が身近な地域で気軽に近隣の住民と交流したり、子育てに関する悩みを相談したりできる場も必要です。
- 同時に、将来の地域づくりの担い手となる子どもたちが、地域とのつながりの重要性を理解できるような取組を進めていくことが重要です。

### 取組目標

- ① 地域ぐるみで子どもを見守り、子ども自身が心身ともに成長していく力を育てていけるような子育てにやさしいまちづくりを進めます。
- ② 次世代を担う子どもたちに、地域との関わりやつながりの大切さを理解してもらい、地域への愛着心を育てます。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 子育てに関する相談・支援機能をもつ拠点を拡充します。
- 子育て支援に関わる人材や関係機関等のネットワークを強め、地域の子育て支援の活性化と人材の支援・育成を行います。
- 子どもの居場所づくりを進めます。
- 地域ぐるみで子育てを見守る風土づくりを進めます。
- 子どもの虐待や貧困等への対応に、より一層学校と連携して取り組みます。
- 小中学生やその保護者に向けた地域活動への理解を深める取組を、学校と連携して推進します。
- 福祉教育の充実を図り、次世代の活動者を育成します。

#### 地域での取組例

- 子育て世帯が参加する住民交流の場づくり
- 子育てに関する情報発信
- 子育て応援キャンペーン活動の実施
- 安心、安全なまちづくりの推進
- 子どもが福祉や地域への理解を深める機会づくり
- 学校やPTAと連携した地域活動の推進
- プレイパークの運営

## ひろがる-3 平成29年度の振り返り

- 親と子のつどいの広場の新規開設により、子育てに関する相談や支援体制の充実が進んでいます。地域でも、まちぐるみで子育て世帯を支えるためのネットワークづくりや子育てサロンの拡充などの取り組みが広がりつつあります。港北区では今後も、地域との関係が希薄な子育て世帯の増加が予想されており、引き続き支援者のスキルアップを含めた相談、支援体制の充実やつどいの場づくりなどを進める必要があります。
- 地域では食や学習などをきっかけとする「子どもの居場所」づくりの取り組みが進んでいます。また、食を通じた居場所づくりを実施する団体の連絡会では、食材の寄付と活用の仕組みについて検討し、ほくほくフェスタにおいて「フードドライブ」を試行しました。区民から多くの賛同を得て寄付された食材は、子ども食堂等で有効に活用されています。
- 地域と学校の連携により、地域活動や防災拠点訓練への子どもの参加や、地域の活動団体等が学校の福祉教育に協力する機会が増えています。このような経験を通して地域への愛着を深めること、また子どもを通じて保護者の地域活動への関心を高める必要があります。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 子育て支援機能をもつ拠点の充実  
地域子育て支援拠点、利用者支援事業、親と子のつどいの広場事業の安定的な運営  
親と子のつどいのひろば 新規開設（29年12月）、「ぽっけ」移転（30年1月）
- 子どもの居場所づくり  
「放課後キッズクラブ」の拡充  
\*新規開設4校（区内合計12校）  
寄り添い型学習支援事業「港北べんきょう会」開催（区内2か所）  
\*べんきょう会を卒業した高校生を対象とした通学定着支援を実施  
区内の子どもの居場所についてリストを作成  
寄り添い型生活支援事業開設（ポートファミリアくすの樹 30年1月）
- 子育てを見守る風土づくり（地区センターとの連携促進）  
\*施設利用者向け「子育てサポートシステム説明会」の開催
- 食の支援ネットワーク会議（3回、19団体参加）での検討をもとにフードドライブ実施
- 区内小中学校における福祉教育の実施

### 【地域での主な取組】

- 地域の子育て支援に関わる団体や機関のネットワーク会議やイベント実施（綱島、高田）
- 子育てサロンの開催・拡充（樽町ほか2地区）
- 子育て世代が多く参加する住民交流の場の開催
- 子どもの居場所の開設または検討（師岡ほか4か所）
- 学校と連携した生徒の地域活動への参加（広報紙の編集、イベントボランティア等）（樽町等）
- 小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教教育の実施【再掲】



# 人と人とのつながりづくり

## 背景

- 単身世帯の増加、近所の人へ声かけする住民の割合の低下などから、近隣関係が希薄化していることがうかがわれます。
- 一方で、災害の頻発や高齢者世帯の増加、子どもなどの弱者が巻き込まれる事件の発生などから、近隣と顔の見える関係をつくっておくことの大切さが再認識されてきています。
- 近隣住民がつながるきっかけをつくり、あわせて、地域とつながりを持つことが困難な人には、情報を届け、参加を促すことが必要です。

## 取組目標

- 1 住民一人ひとりが地域とつながり、支えあうことの重要性について理解を深める取組を進めます。
- 2 住民が交流する機会、場を増やします。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 自ら人と交流し、地域とつながりをつくっておくことの重要性の啓発を進めます。
- 健康づくりや趣味の活動など、交流につながる多様なきっかけづくりに取り組み、また、地域が行うそれらの活動を支援します。
- 地域の福祉活動団体等と連携し、地域とつながりを持ちにくい方への働きかけを行います。
- 交流の場や「居場所」を運営するための資金面の支援や、場の確保に向けた関係機関との調整を行います。

#### 地域での取組例

- 多世代が参加する住民交流イベントの開催
- 趣味の講座の開催による交流のきっかけづくり
- 小スペースを活用したお茶飲み会の実施
- サロンや居場所の立ち上げ、運営（子育て、高齢者、異世代交流など）
- 閉じこもりがちな方への声かけ

## つながる-1 平成29年度の振り返り

- 孤立死や虐待等の予防という視点だけでなく、災害時の迅速な支援のためにも、住民一人ひとりが自ら近隣とつながりを持ち、日頃から顔の見える関係をつくっておくことが必要という意識が高まっています。地域では自治会町内会や民生委員等による挨拶運動、見守り活動や閉じこもりがちな方に対しての声かけが行われていますが、更に当事者団体や専門機関を通しての声かけも必要です。地道な活動ですが継続的に取り組まれることが重要です。
- 子育てや健康づくりなど、地域住民などが主催する多様な交流の場が継続的に運営され、また新たな取り組みも進んでいます。今後も地域のニーズに応じた交流の場を増やしていくことはもちろん、周知方法の工夫、気軽に参加できるような雰囲気づくりや顔の見える関係による声かけで参加を促すような取組も必要です。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 地域とのつながることの重要性の啓発  
個別支援および自立支援協議会を通じた働きかけ  
地域防災拠点訓練における要援護者受け入れ訓練の実施推進  
風水害時の避難訓練において、要援護者への訓練参加の呼びかけ  
地域ケアプラザにおける生活困窮者支援制度出張説明会の実施  
「1人暮らし高齢者地域で見守り推進事業」による民生委員の個別支援
- 地域とのつながりづくりのため、土曜両親教室を地域ケアプラザで実施（5回）
- 地域ケアプラザにおける地域住民の交流の場づくり  
介護予防や趣味をテーマにした講座、おまつり  
父親を対象としたイベントや交流会

### 【地域での主な取組】

- 住民交流イベントや地域のお祭り等の実施
- 子育てや高齢者、多世代交流を目的としたサロンの運営・新規立ち上げ
- 食の支援を視野に入れた多世代交流の居場所立ち上げに向けた検討（樽）
- 自宅の空きスペースを活用したお茶飲み会の実施（高田）【再掲】
- パソコン教室、カラオケ教室、男の料理教室の開催（師岡）【再掲】



# 年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが参加できる場づくり

## 背景

- 高齢化により支援や見守りが必要な方が増える一方で、高齢になっても健康を維持しながら元気に活動したいと考えている方は多くいます。地域では活動の担い手として高齢者の活躍も期待されています。
- 公的制度に基づくサービスとあわせて、地域住民やボランティアによるきめ細かい支援(インフォーマルサービス)の重要性が高まっています。
- 年齢や障がい等による社会参加の困難さを解決するために、ハード面の整備や福祉サービスの充実とともに、身近な地域で高齢者や障がい者、子育て世帯等と地域住民が自然に声をかけ合い、顔の見える関係をつくっていくことが重要です。

## 取組目標

- ① 地域には様々な人が暮らしていることへの住民の理解を深めます。
- ② 年齢、障がいなどにかかわらず、参加できる場を増やします。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 障がいや病気、国籍など、地域に暮らす様々な方への理解を深める取組を進めます。
- 学校や企業と連携して福祉への理解を深めます。
- 年齢や障がいにかかわらず主体的に参加できる地域活動の実施に向けて、働きかけを行います。
- 様々な場において高齢者が活躍できる機会を検討し、実施します。
- 老人クラブの取り組む幅広い活動を発信することにより、加入促進の取組を支援します。
- 障がい者が利用する施設等と地域がつながるきっかけをつくります。
- 公的施設などの整備にあたっては、高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが利用しやすい福祉のまちづくりの視点を持って取り組みます。
- バリアフリーの推進に関する啓発に取り組みます。
- 障がい児・者のための外出相談室「おでかけGO!港北」の機能を高め、利用を促進します。
- 身近な地域での障がい児・者の居場所づくりを進めます。

#### 地域での取組例

- 地域行事への参加呼びかけと、配慮が必要な方への対応の検討
- 高齢者や障がい者等の能力や特性を活かした活動の展開
- 地域の福祉施設と協働した交流の機会づくり
- 認知症カフェ、障がい児・者の居場所づくりの実施

## つながる-2 平成 29 年度の振り返り

- 区役所、区社協等による企業への認知症の理解啓発の取組が進んでいます。高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、今後も各戸を訪問する事業者や商業施設等における見守りの体制づくりに取り組む必要があります。また地域においても住民の関心は高く、認知症カフェなどの活動が広がっています。
- 障がいの理解を進めるため、支援機関や団体、当事者等が啓発活動を行いました。障がい者の利用する施設が地域の行事に参加する機会も徐々に増えていますが、自分の住む地域に参加する場を見いだせない方も多くいます。障がい者支援団体との協働により、地域の中の居場所づくりや社会参加につながるような支援が必要です。
- 高齢者の地域活動や社会貢献を支援する場が開設します。また、地域ケアプラザ圏域ごとに高齢者のつどいの場づくりが進められるほか、集合住宅単位での支援も始まっています。健康づくり活動や趣味活動など、高齢者が参加する機会は少しずつ増えていますが、男性の参加者が少ないことが課題です。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- 認知症や障がい等への理解啓発  
学校や企業での認知症サポーター養成講座の開催  
\*新聞配達員や商店街、大規模商業施設等見守りの必要性を認識する企業からの需要が増加  
精神保健啓発講座「災害時の心の健康」(市大、生活支援センターとの共催)  
区役所における作業所製品販売  
地域防災拠点訓練における障がいに対する理解啓発
- 区内小中学校における福祉教育の実施【再掲】
- 高齢者の参加、活躍する機会の充実  
認知症カフェの新規立ち上げ(1か所) \*計3か所  
生きがい就労支援スポット設置(いきいきシニア地域貢献モデル事業) \*30年3月  
老人クラブ活動支援の推進(広報による周知、町会ごとの活動支援や新規立ち上げ)
- 障がい児者が参加する場づくり  
地域ケアプラザ等における障がい児余暇支援活動と人材育成の実施  
障がい児自主訓練会・サークルの活動協力、支援  
地域作業所連絡会主催交流イベントの開催

### 【地域での主な取組】

- 小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施【再掲】
- 地域の障がい児者施設と連携したイベント、祭りの実施(菊名ほか3地区)
- 老人クラブの活動
- 配慮が必要な方の受け入れを想定した地域防災拠点訓練の実施(日吉、綱島、新吉田あすなろ)
- 認知症カフェの運営、新規立ち上げ(日吉、大倉山)
- 障がい児者の居場所の運営(日吉ほか3地区)





## 健康寿命を延ばす取組の推進

### 背景

- 誰もが安心して健やかに暮らし続けるために、寿命を延ばすことだけでなく、その内の健康な期間を延ばす（健康寿命の延伸）という考え方が重視されており、横浜市でも「第2期健康横浜21」計画において「健康寿命日本一への挑戦」を掲げています。
- 高齢化が進むなか、いくつになっても自立した生活を送るためには、それぞれの世代にあわせた健康づくりの取組を行うことが重要です。
- 運動や休養とともに、「食生活」は健康づくりには重要な視点です。食育への関心が高まっている一方で、「孤食」などの問題も顕在化しています。
- 地域との交流や様々な活動への参加など、積極的に「つながり」をつくることで、心身の健康に効果があると言われています。

### 取組目標

- ① 健康づくりや「つながり」づくりの大切さへの理解を深めます。
- ② 身近な地域で健康づくりを行う場、機会を増やします。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 健康づくりへの関心、意欲を高める仕掛けづくりを行います。
- 外出や他者との交流などの「つながり」が健康を保つことへの啓発を行います。
- 保健活動推進員や食生活等改善推進員が、他の委嘱委員や活動団体と連携して取り組む自主的な健康づくり活動を支援します。
- 身近な地域で介護予防の取組ができる場や機会を増やします。
- 学校、保育園と連携した子どもや子育て世代への啓発など、幅広い世代への食育活動を推進します。

#### 地域での取組例

- ウォーキング、ラジオ体操など健康づくり活動の実施
- 介護予防、認知症予防講座の開催
- コミュニティレストランの運営

## つながる-3 平成 29 年度の振り返り

- ・「ウォーキング」「ロコモティブシンドローム」や「地域のつながりと健康」等の啓発に力を入れて取り組みました。健康づくりや介護予防への住民の意識が高まり、地域でも多くの活動が行われています。また、地域とのつながりが希薄だったり、自分自身の健康づくり活動に取り組みにくい働き世代や子育て世代への啓発として、健康階段の設置や企業における健康づくりの支援に取り組みました。
- ・保健活動推進員や食生活等改善推進員をはじめ、民生委員を中心とした介護予防ボランティア等の人材育成にも力を入れており、地域での活動の活性化につながる事例も増えてきています。既存の地域の活動の充実も含め、多くのつどいの場・健康づくりの場をつくっていくとともに、活動を支える人材の育成も重要です。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・ウォーキングの取組啓発を通じた健康づくりの推進  
ウォーキングポイント事業の普及啓発、ウォーキング手帳の配布  
ウォーキングイベントの開催（地域振興課、福祉保健課）  
ウォーキングサポーターの人材育成と活動支援
- ・企業との協働による健康階段の設置
- ・よこはま健康経営認証制度 2018 認証事業所（6 事業所）
- ・健康づくり、介護予防に関する予防啓発  
\*ロコモティブシンドローム、フレイル  
\*住民同士のつながりと健康（保健活動推進員、食生活等改善推進員）
- ・地域ケアプラザによる介護予防講座の開催や活動団体支援
- ・育ち、学び世代を対象とした食育イベント、離乳食教室の開催

### 【地域での主な取組】

- ・健康づくり部会（地区計画推進組織）におけるウォーキングや心の健康の取組（新羽、新吉田）
- ・保健活動推進員によるウォーキング活動やウォーキング効果測定会の実施
- ・自治会町内会等によるウォーキングやラジオ体操などの健康づくり活動
- ・元気づくりステーションの運営
- ・スリーA等の認知症予防の取組の拡大と人材育成（菊名ほか8地区）
- ・福祉保健講座の開催



# 支援が必要な方を発見し支援につなげる 仕組みづくり

## 背景

- 地域には支援が必要な状態でありながら、相談先がわからない、支援を受けたくない、などの理由で福祉保健サービスを利用せずに暮らしている方がいます。
- 個人情報への過剰な意識の高まりから、地域の福祉活動が困難になっている場合があります。
- ライフラインや新聞、宅配などの事業者により緊急事態が把握される事例が増えています。
- 状態が悪化して対応が難しくなる前に適切な支援を行うためには、日常的に見守り、関係者が情報を共有する仕組みをつくっておくことが必要です。

## 取組目標

- 1 日常的な近隣関係や福祉保健活動を通じた緩やかな見守りを推進します。
- 2 支援が必要な方を速やかに把握し、支援につなげる仕組みをつくります。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 福祉関連事業者や医療機関、学校と連携して、認知症や障がい、児童虐待等の理解に関する普及啓発に取り組み、緩やかな見守りや異変への気づきにつなげます。
- 支援が必要な当事者に対して自ら発信することの重要性について啓発を行います。
- 施設、学校、事業者等と連携し、支援が必要な方を確実に把握する仕組みをつくります。
- 個人情報の適切な利用について、住民の理解を深めると同時に、行政が保有する個人情報を活用し、要支援者を把握する仕組みづくりを行います。

#### 地域での取組例

- 啓発講座、福祉教育、認知症サポーター養成講座などの実施
- 日常生活の中の緩やかな見守り(近隣の見守りも含む)
- ITを活用した見守りシステムの開発
- 公的施設や商店街等と連携した徘徊高齢者の発見、通報の仕組みづくり
- 地域活動で把握した要支援者への対応を共有する場づくり(ボランティア連絡会など)

## とどく-1 平成 29 年度の振り返り

- ・認知症や障がいの理解を促進するため、小中学校・企業等における啓発に特に力を入れて取り組みました。高齢の顧客に接する機会が多い新聞販売店や商業施設においては、認知症等の見守りの必要性を高く認識していると考えられます。今後も商店街等への理解啓発を促進することが必要です。地域では、高齢者のつどいの場づくりと要援護者の災害時支援の取り組みが進んでいます。
- ・子育てや生活困窮、ごみの蓄積等については、積極的に相談しにくい内容である場合も多いため、当事者を取りまく環境から手を差し伸べる仕組みと地域づくりを進めています。また、当事者自身からの相談を促すための情報提供に取り組むことも大切です。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・認知症や障がい等への理解啓発【再掲】  
学校や企業での認知症サポーター養成講座の開催  
\*新聞配達員や商店街、大規模商業施設等見守りの必要性を高く認識する企業からの需要が増加  
小中学校における福祉教育の実施  
精神保健啓発講座「災害時の心の健康」(市大、生活支援センターとの共催)  
地域防災拠点訓練における障がいに対する理解啓発
- ・緩やかな見守りの仕組みづくり  
地域ケアプラザ単位及び区域におけるキャラバンメイトへの活動支援  
徘徊高齢者の早期発見の仕組みの推進
- ・当事者自身による発信の重要性の啓発  
子育てに関する連絡相談先(母子手帳型下敷き配布、関係機関へのチラシ配布)  
生活困窮者自立支援事業について  
\*地域ケアプラザでの出張説明会(9施設)、生活困窮制度定例支援調整会議(事例検討)の開催
- ・要支援者を把握する仕組みづくり  
「ひとり暮らし高齢者『地域で見守り』推進事業」の実施  
「ごみ問題を抱えている人への支援事業」の実施  
「災害時要援護者支援事業」の新規協定締結(3自治会町内会)  
\*全151自治会町内会中134の地域と協定締結
- ・個人情報の適切な取り扱いと利用促進に関する自治会町内会への説明会開催  
\*改正個人情報保護法(29年5月)

### 【地域での主な取組】

- ・小中学校における認知症サポーター養成講座、福祉教育の実施【再掲】
- ・地域の居場所における各種相談受入れと地域ケアプラザとの連携(城郷)
- ・災害時要援護者を地域で支える仕組みづくり
- ・地域・公的施設・商店等と連携した徘徊高齢者の啓発と通報システム(新吉田・新吉田あすなる)
- ・認知症カフェの運営・新規立ち上げ(日吉、大倉山)【再掲】

## 身近な場所で相談・支援が 受けられる環境整備

### 背景

- 支援が必要と感じた時にどこに相談したら良いかがわからない、相談・支援の拠点となる専門機関が遠方にある、などの理由で、適切な支援を受けられないことがあります。
- 気軽に相談・支援を受けられる場を増やしていくことと同時に、医療や福祉の専門機関を含む地域のネットワークをつくることによって重層的な支援体制をつくっていくことが重要です。

### 取組目標

- 1 地域と専門機関等が連携し、地域で支援が必要な人を支える仕組みをつくれます。
- 2 身近な地域で相談や支援を受けられる環境を整えます。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 必要とする人が的確にサービスの情報を得られるよう、情報発信の工夫や相談を受ける支援者のスキルアップに取り組みます。
- 既存の福祉施設の機能を強化することを含め、相談・支援機能をもつ拠点を拡充します。
- 高齢者や障がい者、子育てなど分野別の支援者ネットワークを強化し、支援の質の向上を図り、区域の課題解決に向けた検討を行います。
- 住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、医療と福祉の連携を強化し、包括的な支援・サービス提供の仕組みをつくります。
- 住民と活動団体、関係機関等が地域の課題について共有し、対応を検討する場をつくっていきます。
- 地域たすけあい型ボランティア活動への支援を強化します。
- 民生委員・児童委員が活動しやすい環境をつくります。
- 生活困窮者の自立支援を強化します。

#### 地域での取組例

- 地域型ボランティア(家事支援、育児支援、障がい児の通学支援など)
- 日常的な見守り活動
- 高齢者などの外出を支援する地域交通の運営
- 経済的困難な状況にある小中学生等を対象にした学習支援

## とどく-2 平成 29 年度の振り返り

- ・高齢者、障がい者、生活困窮者に関する地域と専門機関の連携のもと、身近に相談できる場所が活用されています。子育て支援においても、更に支援拠点の整備が進んでいます。医療や福祉の専門機関を含む地域のネットワークを活用し、様々な相談を適切に支援につなげる仕組みを確立することが重要です。
- ・子育て中の保護者の利用を目的とする、オープンデータを活用した新たな情報提供の仕組みとして、子育て情報通知アプリを開発しました。情報の発信者・受信者ともに使いやすい機能の充実と多くの保護者からの活用が望まれます。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・生活困窮者自立支援事業の強化  
地域ケアプラザでの出張説明会を実施（9施設）【再掲】  
保険年金課・税務課職員との相互研修と連絡会の開催（3回）、転入職員向け研修実施  
小中学校専任会との情報共有
- ・要保護児童対策地域協議会エリア会議開催によるネットワーク推進  
\*1 エリアで新たに開催し、全7エリアで実施
- ・サービスに関する情報発信の充実  
子育て情報通知アプリ（ココアプリ）の開発と試行  
自立支援協議会ホームページの活用
- ・相談・支援機能を持つ拠点の拡充  
基幹相談支援センター・生活支援センター・自立支援協議会と連携しスキルアップ研修実施  
地域子育て支援拠点の機能強化【再掲】  
地域子育て支援拠点・利用者支援事業・親と子のつどいの広場事業の安定的な運営  
親と子のつどいのひろば 新規開設（29年12月）、「ぼっけ」移転（30年1月）
- ・地域たすけあい型ボランティア活動への支援  
地域たすけあい型ボランティアグループ交流会の開催（情報交換）  
高校生を対象とするボランティア参加促進

### 【地域での主な取組】

- ・地域たすけあい型ボランティアグループ活動
- ・日常的な見守り
- ・高齢者や要援護者とその支援者が活用できる情報シートの検討（菊名、新吉田）
- ・見守り活動のプレート作成と掲示（菊名、新吉田、新吉田あすなろ）
- ・子どもまたは多世代を対象とする食事支援の実施または検討（菊名、樽）
- ・地域の居場所における各種相談受入れと地域ケアプラザとの連携（城郷）【再掲】





# 災害に備えた要援護者支援の 仕組みづくり

## 背景

- 国内各地で発生する大きな災害をきっかけに、災害への備えに対する関心が高まっています。
- 地域には、災害発生時の避難や、その後の生活に困難が予想される方（以下、「災害時要援護者」）が多く暮らしており、そのような方々への情報伝達や避難支援、安否確認が課題です。
- 横浜市では災害時要援護者名簿の地域との共有を進めており、地域では見守り活動や日頃の顔の見える関係づくりが進められています。また、近年では、「自助」「共助」「公助」の考え方に基づく「減災」の取組を推進しています。

## 取組目標

- 1 災害時に、必要な人に適切に支援が届くような環境整備を進めます。
- 2 災害時の支援が円滑にできるよう、日頃から住民同士の顔の見える関係や、支援の仕組みをつくります。

### [ 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組 ]

- 防災、減災に向けた啓発を進め、住民の災害に対する意識を高めます。
- 災害時に支援が必要と思われる方の情報を地域の防災組織に提供することにより、要支援者を地域で把握する仕組みづくりに取り組みます。
- 地域で行われる日常的な見守り活動の充実や、住民同士の顔の見える関係づくりを支援します。
- 災害時要援護者支援を含めた地域の防災活動への支援を強化します。
- 医療機関等と連携し、災害時に最も効果的な救護活動を行う仕組みづくりを進めます。
- 様々な状況の方の人権に配慮した避難所運営を、地域の防災拠点運営委員会と協働で進めます。
- 災害時のボランティア活動をスムーズに運営するための災害ボランティアセンターの体制整備に取り組みます。

#### 地域での取組例

- 自助・共助に関する住民への啓発
- 災害時の助けあい(災害時要援護者支援)
- 防災拠点訓練等を活用した要援護者支援訓練
- 日常的な見守り活動



## とどく-3 平成 29 年度の振り返り

- ・災害時要援護者支援の取組においては、要援護者の情報をできるだけ正確に把握し、日頃から顔の見える関係をつくっておくことの重要性が高まっています。また、地域防災拠点は要援護者の受け入れを想定した避難所運営を心がける必要があります。防災の啓発と地域における支えあいのきっかけづくりのためにも、多くの住民の参加を促進することが重要です。
- ・地域と関係機関が連携して、風水害を想定した避難訓練を実施しました。自治会町内会では、災害時要援護者支援名簿をもとに、各地区の特性に合わせた支援の仕組みづくりを進めており、拠点運営において要援護者への配慮がいっそう求められています。

### 【区役所・区社協・地域ケアプラザの主な取組】

- ・防災の取組の推進  
震災・風水害の啓発（改訂版ハザードマップを浸水想定区域各戸へ配布）  
要援護者等を対象とする緊急時情報受伝達システムの登録向上の取組（29年度301件）  
地域や関係機関が連携した要援護者避難訓練及び在宅避難者安否確認訓練の実施
- ・災害時医療救護活動における医療機関との連携強化  
新たな医療救護体制を開始し、（29年7月）それに基づく医療救護隊訓練を実施
- ・発災時の地域防災拠点における生活環境改善のための取組  
環境改善備品の配布（エアマット、パーテーション、かご付き台車）  
配慮が必要な住民のための教室確保について
- ・要援護者を把握・支援する仕組みづくり  
「災害時要援護者支援名簿」について、新たに3自治会町内会に提供開始  
\*全151自治会町内会中134の地域に名簿提供  
地域防災拠点訓練における要援護者に配慮した拠点運営訓練の実施

### 【地域での主な取組】

- ・災害時要援護者支援事業の協定締結に伴う要援護者の支援体制づくり
- ・自助・共助に関する研修の開催
- ・地域防災拠点訓練や地域の防災訓練、日常的な見守り活動を活用した要援護者支援訓練等
- ・まち歩きを通じた災害時の助け合いの仕組みづくりの検討（日吉）

## 第 3 期「ひっとプラン港北」地区計画推進状況

平成 30 年 1 月 31 日現在

地区	推進体制	29年度の主な取組
日吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区全体の推進委員会を年 2 回開催するほか、地区内 5 つの地区民児協エリアごとに、既存の地区活動を通して取組を推進。共通テーマは「防災から福祉を考える」。</li> <li>「光と活力活動発表会」実行委員会を年 6 回開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 地区民児協エリアごとに取り組んでいる活動の継続実施</li> <li>「防災から福祉を考える」を共通テーマに、各地区で防災と福祉の視点で、まち歩きを実施。マップ作りを実施</li> <li>光と活力活動発表会で、全体講演会並びに各地区の取組としてまち歩きの報告を実施</li> </ul>
綱島	<ul style="list-style-type: none"> <li>「交流・情報」「子育て支援」「見守り・支援」の 3 部会で推進</li> <li>推進委員会（全体会）で共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流サロンの運営</li> <li>地区独自のニュース及びイベントカレンダーの発行</li> <li>ホームページの運営</li> <li>綱島地区子育てネットワークの開催</li> <li>災害時要援護者支援連絡会の開催</li> <li>防災カード、防災袋の更新</li> </ul>
大曽根	<p>「交流」「見守り・支えあい」「安全・安心」の 3 部会で推進し、年数回の推進委員会で共有。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントカレンダー発行</li> <li>ホームページ立ち上げ</li> <li>緊急時の見守り体制について検討</li> <li>防災訓練の充実と災害時要援護者支援の体制づくり</li> </ul>
樽町	<ul style="list-style-type: none"> <li>「交流」「情報」「子育て・啓発」「見守り・支援」の 4 部会で推進。</li> <li>2～3 か月に 1 回、推進委員会を開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民交流イベントの開催</li> <li>交通安全教室の開催</li> <li>ホームページ立ち上げ</li> <li>イベントカレンダー発行</li> <li>災害時要援護者支援の仕組みづくり</li> <li>地域食堂検討会の立ち上げ</li> </ul>
菊名	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内 3 つの地区民児協エリアごとに計画を推進。</li> <li>年 2 回、推進委員会を開催。</li> </ul>	<p>〈3 地区共通の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防・居場所づくりを目的としたスリー A 活動が全地区で展開されたほか、プログラムが拡充</li> <li>生活安全安心メモの内容更新</li> </ul> <p>〈各地区の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者 110 番」のプレート更新</li> <li>交流ベンチの更新</li> <li>交流の輪づくりとして「らくらく市」を開催</li> </ul>
師岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報発信・地域活性化」「子育て」「住民交流」「見守り・支援」の 4 つのテーマごとのグループで推進。</li> <li>年 2 回、推進委員会を開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント（男性の料理教室実施）を通じた町の活性化と人材発掘</li> <li>こども学習会の開催、フォーラム等での発表（ほくほくフェスタ、市域講座他）</li> <li>災害時要援護者の見守り</li> </ul>

地区	推進体制	29年度の主な取組
大倉山	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地区社協の部会活動を始め、まちな様々な活動を計画の推進と位置付けている。</li> <li>• 月1回の推進会議で進捗を確認し、年1回振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存の地区活動の継続、充実</li> <li>• 大倉山夢まちづくり（住民交流イベント、太尾緑道花壇づくり等）</li> <li>• 太尾ふれあいクラブで、高齢者に支援の要望についてのアンケートを実施</li> </ul>
篠原	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度末に活動報告会を開催。</li> <li>• 1期計画から引き継ぐ交流分科会と情報分科会が事業を継続。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「わがまち篠原」活動報告会の実施</li> <li>• 障がい児余暇支援事業</li> <li>• ホームページの運営</li> <li>• ひっとプラン連絡会の開催について検討</li> </ul>
城郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「地域交流」「子育て」「見守り」「人材育成」「情報発信」の5部会で推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門職と連携した相談の場づくりと新たな居場所づくりの検討</li> <li>• 子育てサロンを拡充して実施</li> <li>• 見守り活動の継続と他地区への展開支援</li> <li>• 人材育成のための年間連続講座の開催、ボランティアグループ周知の検討・実施</li> <li>• ホームページのイベントカレンダーの検討</li> </ul>
新羽	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「子育て」「健康づくり」「交流」「見守り・支援」「情報発信」の5部会で推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域食堂、子ども会の活動支援を検討</li> <li>• ウォーキング活動の充実</li> <li>• 「心の健康講座（地元住職の講話）」2回開催</li> <li>• 「男の料理教室」開催</li> <li>• 災害時要援護者支援の体制づくり</li> <li>• イベントカレンダー発行</li> </ul>
新吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「健康づくり」「高齢者支援」「子育て支援」「要援護者支援」の4部会で推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 健康づくり活動の推進「やすらぎ塾」継続</li> <li>• 「さがしてネット」の継続と充実、プレート更新に向けた準備（新吉田あすなろ地区と合同）</li> <li>• 子育てサロン「フリースペースよしだっこ」の開始、ブログ開始</li> <li>• 災害時要援護者支援の拡充を目指し、独自の避難者カード作成、訓練での模擬使用</li> </ul>
新吉田あすなろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地区連合町内会定例会にあわせて推進委員会や打ち合わせを実施。</li> <li>• 必要に応じて部会を設置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツを通じた仲間づくりと多世代交流の推進</li> <li>• 「さがしてネット」の継続と充実、プレート更新に向けた準備（新吉田地区と合同）</li> <li>• 広報紙でのひっとプラン取り組み紹介</li> <li>• 防災訓練における災害時要援護者支援推進</li> <li>• 中学校における認知症啓発の継続</li> <li>• 教員むけの福祉講座にて活動報告</li> </ul>
高田	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連合町内会、地区社協、地区子育てネットワークが中心にそれぞれの取組を推進。</li> <li>• 推進委員会を年2回実施し、他必要時には役員会を開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 災害時要援護者支援と日頃の見守り活動の推進</li> <li>• 地域福祉活動団体懇談会の開催</li> <li>• 子育てネットワーク会議の開催と「こどもまつり」開催</li> </ul>

## 第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会での検討内容

第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会での意見について、平成29年度は、次のとおり取り組みまたは検討を進めました。

**【意見】 人材はつながるきっかけやチャンネルがないだけで、港北区には人材があふれているはず。若い人に問いかけ、その意見を拾い上げることが参画にもなる。**

第3期で取り組むべき課題と方向性として「住民主体と協働」を掲げており、とりわけ「人材の確保」については、積年の課題となっていました。また、ひっとプラン港北の推進においては、若い世代の意見を聞く機会がありませんでした。これらの課題への解決策を検討するため、今年度、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科と連携協力し、20代～50代の方を対象とした「地域活動に関する意見交換会」をフォーカス・グループインタビュー形式で実施しました。

若い世代の意見を踏まえた自治会町内会活動などの情報発信の工夫等、取り組める課題も見えてきました。分析結果を基に、次年度にアンケートを実施します。得られた結果やこれまでの取組も踏まえ、具体的な取り組みを進めていきます。また福祉分野のみならず、広く地域活動への若い世代の参加を促す新たな手法や仕組みの構築に向け、地域や自治会町内会関係者の意見を伺うなど進め方を模索しているところです。

**【意見】 ITの活用を積極的に検討した方が良い。若い世代への情報伝達は、彼らが使い慣れている媒体を活用すべきである。**

今年度、子育て情報通知アプリ（ココアプリ）を共同開発し、情報の発信者・受信者ともに使いやすく、かつ機能の充実を図りました。「地域活動に関する意見交換会」の中でも、若い世代は、SNSやネットから情報を得ている、との意見がありました。地区の情報をホームページで提供している地区もありますが、一方で、まだホームページを開設していない地区もあります。ホームページの開設だけでなく、情報更新等ホームページの維持、継続に課題を感じている地区もあり、来年度は、ホームページ等に関して地区区社協等を対象とした勉強会・情報交換会の開催を検討しています。

また、「人材」、「人とのつながり」について検討し、取組を進める上でも「情報」が要となってくるため、来年度のほくほくフェスタでは「情報」をテーマとして区民フォーラムを開催したいと考えています。

**【意見】 区民フォーラムの企画について、区・区社協以外の意見を取り入れて欲しい。**

今年度のほくほくフェスタは、例年通りの方法で企画し開催しました。開催にあたり、企画の段階で委員のみなさまには企画案を通知いたしましたが、説明の機会がなく、意見をいただくには至りませんでした。

来年度のほくほくフェスタについては、区民フォーラムのテーマを「情報」とし、意見いただける推進委員の参画を予定しています。

ほくほくフェスタ「区民フォーラム」は、「ひっとプラン港北」の周知と地域における福祉保健活動の取組を共有する重要な機会です。

来年度は、推進委員にほくほくフェスタ等「ひっとプラン港北」の具体的な取組に関わっていただく等、推進委員の意見を踏まえて推進していきたいと考えています。

## 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（SDM）との包括協定に基づく連携について

## 1 29年度の取組

## (1) スケジュール

日にち	内容
平成29年6月1日	『慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科と横浜市港北区役所の連携協定』 締結
平成29年10月17日	地域コミュニティにおける新たな人材の発掘やコミュニティ活動の支援などを検討する、『「地域の未来デザインの構築」検討に関する協力覚書』 締結
平成29年11月12日(日) 平成29年11月18日(土)	地域活動に関する意見交換会（フォーカス・グループインタビュー）実施
平成29年11月～ 平成30年3月	地域活動に関する意見交換会（フォーカス・グループインタビュー）結果分析

## (2) 地域活動に関する意見交換会（フォーカス・グループインタビュー）について

	第1回	第2回
1 日時	平成29年11月12日(日)10:00～12:00	平成29年11月18日(土)13:30～15:30
2 参加人数	8名 (地域活動団体等ボランティア4名、保健活動推進員1名、学校・地域コーディネーター1名、自治会未加入者2名)	15名 (地域活動団体等ボランティア8名、主任児童委員4名、放課後キッズクラブ1名、こども会1名、保健活動推進員1名)
3 インタビュー項目	<p>(1)自治会町内会行事への参加状況について 参加した方は参加して良かったことと『もっと工夫した方が良い』と思われる点 参加されていない方はその理由</p> <p>(2)所属している団体として、自治会町内会行事への参加状況 参加した方は参加して良かったことと『もっと工夫した方が良い』と思われる点 自治会に入られていない方は、職場としての関わりと自治会に入らない理由等</p> <p>(3)近所づきあいの程度について 子育てや仕事、介護の悩み等があった場合に、地域の方の力を借りて解決しようと思うか</p>	
4 意見	<p>○ 情報に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がいちばん見ているのはSNS。若い人もネットから情報を得ている。</li> <li>・若い人は、よほど興味、関心がある時しか調べない。</li> <li>・1対1で誘われることはとても重要。</li> <li>・回覧板が回り終わる頃には行事がすべて終わっている。</li> <li>・掲示板は通りすがりに見る程度だが、興味がある言葉は目にとまる。</li> </ul> <p>○自治会町内会加入の必要性に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会町内会の活動を知る機会がない。</li> <li>・自治会町内会のメリット、デメリットがわからない。</li> <li>・加入のきっかけがない。（誘われない）</li> <li>・子どもがいれば必要性を感じると思う。</li> <li>・自治会町内会が具体的に何を必要としているかわかればできることはあると思う。</li> </ul>	

	<p><b>○自治会町内会加入に当たっての不安感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会・町内会に入るには決意が必要だと感じる。（敷居の高さ）</li> <li>・最初はよそ者で、行事等でもうまく交われない。</li> <li>・自治会町内会の活動が見えないので、どのような役割を担い、期待されるのか不安</li> </ul> <p><b>○自治会町内会加入後の気づき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会町内会会員になっても、活動の詳細はわからない。</li> <li>・組長をやることで少し町内会活動を理解できた。</li> <li>・自治会町内会内部に入り込んでしまえばウェルカムだが、外部からは排他的に見える。</li> <li>・子どもを地域で育てて貰ったと実感。地域の協力は子どもが育つうえで必要。</li> <li>・いざという時こそ、地域に顔見知りが必要。</li> </ul> <p><b>○自治会町内会組織について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会町内会活動に若い人に加入してほしいが、アプローチ方法がわからない。</li> <li>・自治会町内会の仕組みが明不確だと感じる。</li> <li>・自治会町内会の役割を細分化したら良いのではないか。</li> <li>・昔ながらの「慣習」があり、慣習をよく知る特定の人がいないと回らない。</li> <li>・会議ではわからない単語が多いが、説明もなく進められてしまう。（質問できない）</li> <li>・議事録がないこともある。後日確認や欠席者に内容を伝えるためにも必要だと思う。</li> </ul> <p><b>○人間関係</b></p> <p>（思い込みやイメージが先行しているのかもしれないが）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員は、負担感があるイメージ。</li> <li>・一度、参加や手伝いをすると次から次へ要求が増えるのではないかという不安がある。</li> <li>・入ると抜けられない、死ぬまで逃げられないという負担感がある。</li> </ul> <p><b>○自治会町内会活動の時間に関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共働きなので、町内会の方と関わる機会が少ない。</li> <li>・会議時間が長いと感じる。</li> <li>・会議には子連れで参加できるとありがたい。中学1年生の子を夜1人にできない。</li> <li>・仕事や子どもの都合で参加できない時もあることを理解してもらえるとありがたい。</li> </ul> <p><b>○自分たちができると思うこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得意なことなら協力できると思う。</li> <li>・果たす役割が明確であらかじめ所要時間がわかれば、参加しやすい。（仕入とか、設営とか、部分的な依頼など）</li> <li>・すきま時間に気軽に参加できるとよい。</li> <li>・できる時に、できることをやってくれる？という依頼なら負担感が少ない。</li> </ul>
--	---

## 2 30年度の取組

### (1) 第3期「ひっとプラン港北」中間振り返りアンケート 調査項目の検討

29年度に実施したインタビュー結果を基に、アンケート調査の一部項目の検討を行います（5～8月）。調査項目は、第3期「ひっとプラン港北」の浸透や取組への参加意向、人材の発掘・確保などを想定しています。

## 第3期「ひっとプラン港北」平成30年度の方向性

### 1 平成30年度の取組

#### 第3期計画の中間振り返りの実施

次年度は、第3期「ひっとプラン港北」が全5か年の折り返し時点である3年目を迎えます。現計画の進捗確認と次期計画策定の基本資料とするため、区民アンケートを実施し中間振り返りを行います。また、今年度実施した地域活動に関する意見交換会の分析結果を踏まえ、新たな人材の確保を図るための質問項目も盛り込む予定です。

#### 年齢や障がいに関わらずつながる仕組みづくり

年齢や障がい等による社会参加の困難さを解決するため、地域の中で、子育て世代も含めた交流の場づくりを進める必要があります。生きがい就労支援スポットや基幹相談支援センター・生活支援センター等と協働して、当事者や関係団体が地域とつながる機会の拡大を推進します。また、地域包括ケアシステムの指針に基づき、このような機会を通して、住民が主体的に課題を解決していけるような地域づくりを目指します。

#### 人材の発掘・確保のための取組

人材の確保については、各地区で共通する積年の課題となっています。この課題解決の一助とするため、次年度には、地域活動に関する意見交換会の分析結果を踏まえたアンケートを実施します。得られた結果やこれまでの取組も踏まえ、具体的な取り組みを進めていきます。また福祉分野のみならず、広く地域活動への若い世代の参加を促す新たな手法や仕組みの構築に向け、地域や自治会町内会関係者の意見を伺うなど進め方を模索しているところです。

### スケジュール（案）

時期	取組	内容
4月	地区計画ニュースの回覧	地区の取組等、推進の状況を広く地域にお住まいの方に周知します。
	情報に関する地区情報交換会（仮）	ホームページ等の情報更新、維持継続に関する情報交換会を開催します。
6月～7月	第1回第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	30年度の具体的な取組についてご提示します。協働しながら進める事業について意見交換のうえ、方針を確定します。
8月～10月	アンケート調査	中間振り返りを主目的としたアンケート調査を実施します。
11月2日（金）	ほくほくフェスタ	福祉保健活動の取組の発表と共有の場として、社会福祉大会と区民フォーラムを開催します。
11月頃	地区連絡会	他地区の計画推進状況や取組を共有します。推進における課題について地区を越えて討議し、各地区の取組に活かします。
2月～3月	第2回第3期「ひっとプラン港北」策定・推進委員会	30年度の報告と31年度の取組の方向性についてご報告し、課題となっていることについて意見交換を行います。
3月	地区計画ニュース発行	各地区の取組の振り返りと次年度の取組を確認します。



## 第 3 期計画推進スケジュール（平成 28～32 年度）

30 年 2 月改訂版

年度	月	区全体計画	地区計画
平成 28 年度	4 月	<b>計画周知</b>	
	6/2	第 1 回策定・推進委員会	
	10/28	ほくほくフェスタ	
	11/29		区計画推進委員会連絡会議
	3/2	第 2 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 29 年度	10/26	ほくほくフェスタ	
	11/12	地域活動のための意見交換会	
	11/18		
	11/29		地区計画推進委員会連絡会議
	2/15	第 1 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 30 年度	6 月頃	第 1 回策定・推進委員会	
	8 月頃	区民アンケート 活動団体ヒアリング ↓ 中間振り返り	
	11/2	ほくほくフェスタ	
	11 月		地区計画推進委員会連絡会議
	3 月頃	第 2 回策定・推進委員会	
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 31 年度	7 月	第 1 回策定・推進委員会	
	10 月	ほくほくフェスタ	地区計画推進委員会連絡会議
	3 月	第 2 回策定・推進委員会	地区計画検討・策定
		計画推進状況の振り返り・地区計画ニュース発行	
平成 32 年度	7 月	第 1 回策定・推進委員会	
	10 月	ほくほくフェスタ	地区計画推進委員会連絡会議
	11 月	第 2 回策定・推進委員会	計画素案決定・区民意見募集 ↓ 次期計画決定
	3 月	第 3 回策定・推進委員会	

## 平成 29 年度 ひっとプラン地区連絡会議 報告書

今回、「ひっとプラン港北」における各地区の取組の情報共有等を目的に、地区連絡会議を開催しましたので、会議の内容を報告します。

日時：平成 29 年 11 月 29 日（水）10 時から 12 時

場所：港北区社会福祉協議会（福祉保健活動拠点）3 階 多目的研修室

内容：

- 1 各地区における新たな取組またはこれからの取組予定について意見交換を行いました。

地区	取 組
日吉	・「防災をとおして福祉を考える」というテーマによる各町の取組では、各々前年の取組を発展させたまち歩きを実施している。（5 年計画の 2 年目）
綱島	・子育て支援関係者に子育て支援ネットワーク会議への参加を呼びかけ、ネットワークが拡大した。（2 年目） ・見守りの対象者に配布する防災カード・防災袋を更新した。
大曽根	・継続して実施している事業を発展させていく予定。 ・今年度は特にホームページの開設、地域防災拠点の活動に力を入れている。
樽町	・子ども向けの交通安全教室を実施。また、子ども食堂について検討中。 ・ケアプラザの「きららまつり」を「樽町ふれあいの集い」と合同で実施した。
菊名	・スリー A の実施会場を拡大し、高齢者 110 番ステッカー、一休みできるベンチを更新した。 ・高齢者、支援者双方の役に立つ生活安全安心メモについて検討している。
師岡	・「師岡子ども学習会」を開始し、ほくほくフェスタの区民フォーラムで発表した。 ・パソコン教室、カラオケ大会、男の料理教室を新規に開講した。 ・師岡寄席で中学校の落語クラブが発表できる場を設定した。
大倉山	・水再生センター周辺の桜の植樹、ミックス花壇作りや花壇の木に QR コード（花の写真や見頃がわかる）つきの名札をつけ、住民の憩いの場づくりを進めた。 ・太尾ふれあいクラブが、高齢者を対象に支援の要望に関するアンケートを実施。
篠原	・連絡協議会の設置を検討しており、年 1 回の報告会・意見交換会を実施したい。 ・HP の充実を図る予定。
城郷	・子育てサロンを拡充し、3 地区で計 36 回開催した。 ・人材確保を目的として、地域探検（講座）を 4 月から開講し毎月実施している。
新羽	・ウォーキングの更なる活性化を図っている。 ・地域食堂として、子どもから高齢者までを対象にした「ダイニング 28（にっば）」を発足した。
新吉田	・新たに「第 2 よしだっこ」（子育てサロン）を開所した。 ・各町会の要援護者支援の取組を共有し、連合全体の共通取組についても検討した。
新吉田 あすなろ	・継続して実施している事業を発展させていく。 ・見守り、健康づくりのサロンで交流を深められるようにしていく。
高田	・災害時要援護者支援、子育て支援を進めている。 ・地区社協は顔の見える関係作りを行っている

2 地域の活動について、20～50 歳代の区民にインタビューの中で、「地域の役に立ちたいが何をしたらいいのか」という意見がありました。そこで、地域として若い世代にどのようなことを期待しているのかについて意見交換を行いました。

### ※各グループの主な意見交換の内容

#### 【1 グループ】

町内会には入るのにハードルが高い、入ったらやめられないというイメージがあると思う。各々の加入の呼びかけの努力はしているが、裾野を広げてどうするかという問題がある。今ある会議などを精査し、必要な部分を充実させるなど、負担を軽くする動きも必要ではないか。そうすれば、自然と新しい方の参加もあるのではないか。

#### 【2 グループ】

子ども学習会を師岡地区で行っている。テーマを絞ったことがよかった。こういうことをやりたいと考えたときにニーズを考える必要もあるが、まず、実行することが大事。「ひっとプラン」には、若い人向けの取組がないので、子どもや若い人向けの取組目標を設けるべきではないか。

#### 【3 グループ】

区民意識調査でも町内会の活動が分からないという回答が多い。周知について考える必要がある。共働きで普段は活動ができないという人が多いが、何かピンポイントで提示すれば、協力してもらえるのではないか。手っ取り早いのはホームページだが、高齢者向けに紙媒体は必要。向こう三軒両隣仲良くしていったら、つながりができる。

#### 【4 グループ】

地域の行事に担い手として参加した方に、地域で使える金券を商店会と協力して渡している町会がある。町会役員は70代以降の人が多く、若い世代とは考え方のギャップがあるようだ。今は回覧、掲示板が主なツールだが、インターネットの活用も行わなければならない。

### ※その他意見

- ・お菓子作りや裁縫など、得意なことや趣味を生かせる活動なら参加してくれる人が多い。
- ・意見を聞き、参加しやすい雰囲気を作ることが重要だと思う。意見を反映させれば、次も参加したいと思ってもらえるのではないか。
- ・町会はしばられるイメージがあるので、期間限定の活動でも許される環境が必要ではないか。
- ・学校との協働は重要。防災訓練では、中学生に参加してもらうことで、助け合いの心を子どものころから育むことも大切だと考えている。
- ・町内会費という言葉にも抵抗があるのではないか。「賛助会費」など、名称を変えてはどうか。
- ・きめの細かい情報発信が求められている。「何日」の「何時から何時まで」手伝って欲しいという発信でないと、ピンポイントでも簡単には協力してもらえない。